

愛とはマンへの誘い

万葉歌碑道標

みちしるべ

翠ヶ丘公園



26 椿(つばき)



40 かきつばた



「翠ヶ丘公園万葉歌碑」

いにしえ人が喜びや悲しみをうたった万葉集の中には野の草や花木を詠んだ歌が多く1700首におよび登場する植物は150種にのぼるといわれています。

翠ヶ丘公園は自然が多くみちており万葉集に詠まれている植物も多く自生しています。

このたび本公園の植物の中から60種を選びその植物が詠み込まれた歌を歌碑に彫り込み、多くの市民が自然に親しみ郷土を愛する心と誇りを持つようにと設置したものです。

森林浴をかねながら園内を散策し万葉の世界にひたることが出来ます。

なお、歌碑に刻まれた文字は平成二年三月及び三年三月卒業した市内中学三年生が揮毫したものです。



平成5年度 建設省主催

ふるさとの風景にとけこむ道(万葉の径)として「手づくり郷土賞」受賞



翠ヶ丘公園への交通案内



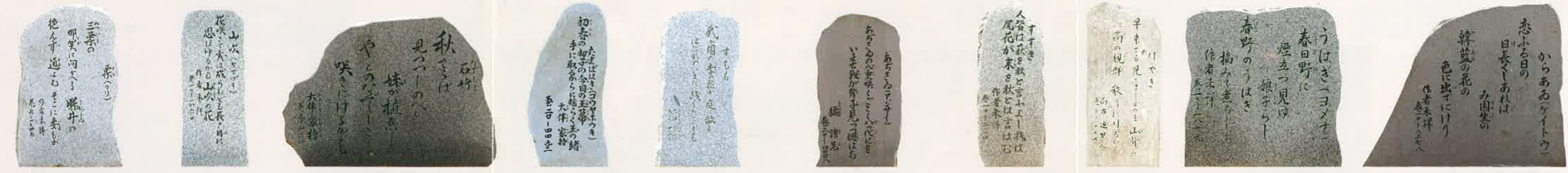
- 所在地 福島県須賀川市愛宕山地区内(翠ヶ丘公園内)
- 公園計画面積 約29.9ha
- 万葉歌碑 60基

「万葉集」
今から約1230年前(西暦759年)の奈良時代にまとめられた現存最古の歌集です。約四百余年間の歌を全20巻に4500首が収められております。その時代に生きた人々の真実の姿や心情が見事に表現されており豊かな人間性にもとづき現実に即した感動を率直に表しております。
編集は大伴家持(おとおものやかもち)の手を経たものと言われています。

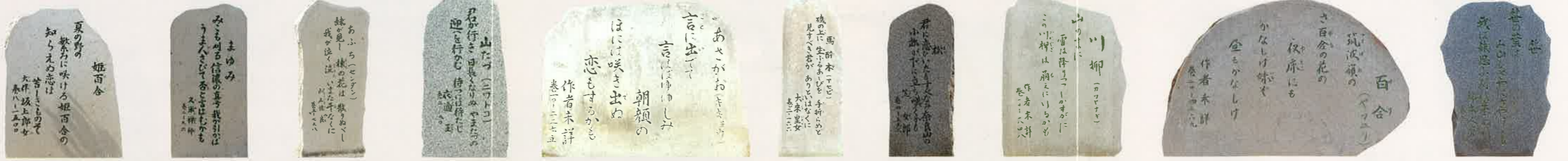
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
笹	く (くり)	山 (ヤマブキ)	石竹	たまははき (ウヤホウキ)	すもも	あぢさゐ (アジサイ)	すすき	けやき	うはぎ (ヨメギ)	からあみ (カイトウ)	つきくさ (ツクサ)	杉	かほばな (ヒルガキ)	梅	葛	おもひくさ (オモヒクサ)	忘れ草 (ワシラン)	萩	蓼
我がやどの種、古跡、摘み生ほし 実になるまでに君を待たむ	笹の葉はみ山もさやにさやげども 我は妹思ふ別れ来ぬれば	花咲きて実は成らねども長き日に 思ほゆるかも山吹の花	秋さらば見つしのへと妹が植えし やどのなでしこ咲きにけるかも	初春の初子の今日の玉緒 手に取るからに揺らく玉の緒	我が園の李の花が庭に散る はだれのいまだ残りたるかも	あぢさゐの八重咲くごとく八つ代にを いませ我が背子見つて懐はむ	人皆は萩を秋と言ふよし 我は尾花が末をあきとは言はむ	高の槻群散りにけるかも	春日野に煙立つ見ゆ娘子らし 春野のうはぎ摘みて煮らしも	恋ふる日の日長くしあれは み園生の韓藍の花の色に出でにけり	朝咲き夕は消ぬる月草の 消ぬべき恋も我はするかも	うまさけを三輪の槻が齋ふ杉手触れし 罪か君に違ひかたき	高円の野辺のかほ花面影に 見えつつ妹は忘れかねつも	我が園に梅の花散るひさかたの 天より雪の流れ来るかも	赤駒のい行きはばかるま葛原 何の伝て言直にし良けむ	道の辺の尾花が下の思い草 今更々に何か思はむ	忘れ草我が紐に付く時となく思ひ 渡れば生けりともなし	高円の野辺の秋萩いたすらに 咲きか散るらむ見る人なしに	我がやどの種、古跡、摘み生ほし 実になるまでに君を待たむ
作者 未詳 卷二 一三三	作者 未詳 卷九 一七四五	作者 未詳 卷一〇 一八六〇	大伴家持 卷三 四六四	大伴家持 卷二〇 四四九三	大伴家持 卷一九 四一四〇	大伴家持 卷二〇 四四四八	作者 未詳 卷一〇 二二一〇	高市連 黒人 卷三 二七七	作者 未詳 卷一〇 一八七九	作者 未詳 卷一〇 二二九一	丹波大女娘女 卷四 七二二	大伴家持 卷八 一六三〇	大伴旅人 卷五 八二二	作者 未詳 卷一三 三〇六九	作者 未詳 卷一〇 二二七〇	作者 未詳 卷二 二二二一	作者 未詳 卷二 三〇六〇	笠金村 卷二 二二二一	東 卷一 二七五九



1 蓼(たて) 2 萩(はぎ) 3 忘れ草 4 おもひくさ 5 葛(くす) 6 梅(うめ) 7 かほばな 8 杉(すぎ) 9 つきくさ



10 からあみ 11 うはぎ 12 けやき 13 すすき 14 あぢさゐ 15 すもも 16 たまははき 17 石竹(なでしこ) 18 山吹 19 くり



20 笹(ささ) 21 百合(ゆり) 22 川柳 23 松(まつ) 24 馬酔木(あしび) 25 あさがお 26 朝顔 27 山たづ 28 あぶち 29 まゆみ 30 姫百合(ひめゆり)

翠ヶ丘公園

本市における最初の都市公園で市街地の中心部に極めて近接した位置にあり、その面積は二九九ヘクタールである。

園内は全般的に起伏に富みアカマツを主体とした植生が緑地を成し、また景観をかもしだす池や川があります。

中心部には、翠滝とせせらぎ広場や新池のほか、中央園地とわんぱく広場があり、更に北には、崖地の迫った琵琶池があります。西側を流れる須賀川の川岸は、当地方随一の桜の名所（樹齢六十年の桜並木）となっております。さらに南側一体は勇壮な火祭り『松明あかし』の催し広場が配置されている。

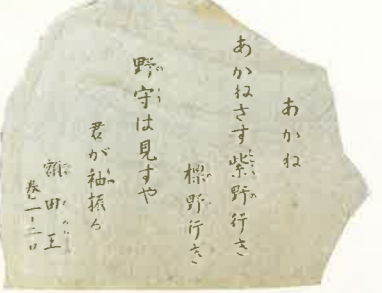
なお当公園は、平成元年七月、日本の都市公園百選に選定されるとともに、平成二年二月には福島県ふるさとアメニティ地区に認定されている。



31 くれなゐ



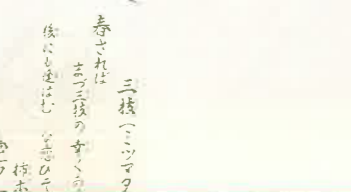
32 菱



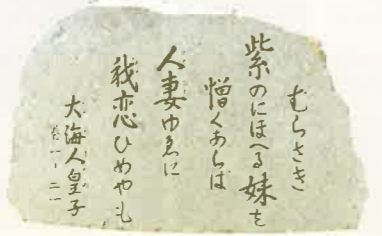
38 あかね



39 あし



43 山ざさ



44 むらさき



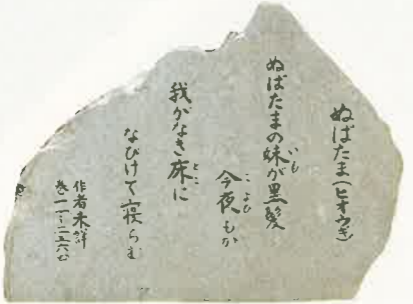
41 桜(さくら)



42 すみれ



36 蕨(わらび)



35 めばたま



37 橘(たちばな)



33 かたかご



34 かつら

